

# 農業新聞ダイジェスト

ご紹介いたします。(令和6年4月から12月分)



4月11日

## 登録 鹿児島知事へ報告

### 種子島レザリーフファン

#### JA種子屋久と花き振興会



G1登録を塩田知事(右から2人目)に報告する岩組合長(左から2人目)ら

「かごしま」JA種子屋久とJA花き振興会は9日、県庁を訪れ、塩田康一知事に「種子島レザリーフ」生産者が厳しい選別

基準を守り、生産に励んだおかげ。後継者不足が課題だが、登録を機に若手が挑戦し、地域活性化につながればと期待を述べた。JAの岩組合長や鎌田昭一常務、振興会の片板一朗会長ら11人が表敬訪問。種子島レザリーフファンは、3月27日にG1登録された。国内最大の産地であるJA管内では、100人が10・6秒で栽培約342万本を全国に出荷している。品質管理を徹底する納いも」に続き7品

ため、遮光管理や水揚げ、冷蔵輸送出荷を実施。冬季保温対策に地元サトウキビの搾りかすを利用して周年出荷も推進する。つやのある濃緑の葉色と左右対称の形状など、品質の高さから冠婚葬祭やアレンジメントなどで人気が高い。振興会の片板会長は「輸入品より日持ちが良くて、市場からの引き合いが強い。登録を機に産地をさらに盛り上げ、出荷量を増やしたい」と述べた。県内のG1登録産品は、22年の「種子島安納いも」に続き7品目。種子島レザリーフファンは、16日まで県庁階ロビーに展示している。



## 高品質花きめざす

### JA種子屋久 選別基準を確認

「種子島久 JA種子屋久花き振興会は4月中旬、南種子町で2024年度の選別基準を定めた。24年度は40万本の出荷を計画する。大塚吉明指導員が出席し、選別基準を確認した。振興会の片板一朗会長は「この地区からの出荷でも選別基準・品質であることがブランド維持に必要だ。かごしまブランドを確立し、今後も高品質の花きを出荷し、消費者に喜んでもらいたい」と話した。

JA花き振興会 片板一朗会長(左)とJA種子屋久 大塚吉明指導員(右)らによる選別基準の確認の様子

7月18日

子島管内で7月、「コシヒカリ」の収穫が始まった。JAは10日からライスセンターを操業。約700トの出荷を計画する。

7月18日



子島管内で7月、「コシヒカリ」の収穫が始まった。JAは10日からライスセンターを操業。約700トの出荷を計画する。

## つながり、対話重視



JAの概況  
鹿児島県の種子島と屋久島、口永良部島が管内。種子島ではサツマイモ、ジャガイモ、サトウキビ、和牛繁殖が、屋久島ではカンナといった果樹や茶の生産が盛ん。レザリーフファンは国内最大の産地で、地理的表示(GI)保護制度に登録された。組合員数=7892人(正組合員3972人) 貯金残高=562億円 貸付金残高=134億円 長期共済保有高=1919億円 販売品取扱高=65億円 販売品供給高=65億円 職員数=327人

5月31日

5月18日

## 出荷基準表を作成

### 鹿児島・JA種子屋久花き振興会



レザリーフファンの出荷基準表を手にする若手生産者ら

若手農家の理解促進  
レザリーフファンは、栽培が始まり、管内では西之表市、中種子町、南種子町の各産地で生産されている。出荷基準表は、JA管内の各産地で、生産者が参照し、出荷基準を統一し、品質を高めることを目指している。

「鹿児島・種子島 JA種子屋久花き振興会」は、種子島の主要産品「レザリーフ」の出荷基準表を作成した。以前は秀品と標準品に分けていたが、南種子町で開いた話し合いで、生産者間の意見交換が行われ、統一の出荷基準が決定した。出荷基準表は、生産者間の意見交換が行われ、統一の出荷基準が決定した。

# 農業者の確定申告時の必要経費として計上することができます！

(税込)【種子島地区：JA生活福祉課(24-2130) 屋久島地区：JA組合員課(47-2211)]へご連絡ください☆



【全体運】対人運が活性化。助けてくれる人が現れて計画は前へと進みます。旅行に行くのもお勧め。ぜいたくプランが◎  
【健康運】免疫力をアップさせる食材を多く取って  
【幸運を呼ぶ食べ物】アスパラ菜